

科目区分：学校教育教員養成課程中等教育コース音楽教育専修
授業科目名：ピアノ（1）
対象年次：1年次（重複履修可）

「ピアノ（1）」の授業評価報告

音楽教育講座 福富 彩子

1. 授業の目的

本授業は、学校現場（音楽教科における授業）で求められるピアノの基礎的な技能と演奏表現力を身につけることを目的としている。

2. 到達目標

- (1) 楽譜の情報を正確に理解し、両手での簡単な楽曲を演奏することができる。
- (2) 小・中学校教材程度の簡易な楽曲のデュナーミク、テンポ、表情記号などの楽譜に示された音楽情報を正確に読み取ることができる。

3. 授業の概要について

「ピアノ（1）」は、学校教育教員養成課程中等教育コース音楽教育専修の専門科目として1回生後期に開講されており、2回生～4回生（後期）まで重複履修が可能である。2020年度後期の福富クラスの登録学生数は6名で、内訳は中等教育コース4名（1回生1名、2回生2名、3回生1名）、小学校サブコース1回生2名であった。

本授業は、次の1.と2.の選択課題を取り上げて演習を中心に行った。各受講者の演奏課題は、個々の熟達度に応じた楽曲を相談の上決定した。

1. 任意の練習曲1曲（例：チェルニー、モシュコフスキー、クラマー・ビューロー等）
 2. モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン（初期）等の古典派ピアノソナタから任意の主要楽章（緩徐楽章を除く。ソナチネ集からも選択可）
- 上記1.と2.のプログラムを合わせて10分以内
※2回生以上で重複履修の学生
ロマン派のピアノ作品：任意の1曲（10分程度）

4. 授業方法と工夫点について

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前期は全面的に遠隔実施となったが、後期は対面申請が認められ、感染対策を徹底した上

で実施した。2021年1月以降は再び遠隔実施となったが、最終試験（2月2日）は対面で実施することができた。対面・非対面によるハイブリッド型の授業であったが、それぞれの良い点を活用して学生の学習意欲を高め、技能向上を図ることができるよう心がけた。具体的には、次のような方法で行った。

【対面（第1回～第11回）】

対面授業は1対1で、双方マスク着用の上2メートル以上の距離を取り、間にビニールのパーテーションを設置した状態で行った。

対面では、実音による演奏聴取が可能であり、双方向のやり取りは従来とほぼ変わらないかたちで行うことができた。一方、近距離での直接的な指導ができないこと、演奏による例示や模範奏ができない点が課題であった。このため、学生自身がどのように聴取し、認識できているかの確認と、各課題に対する演奏法や練習法の助言など言葉掛けを中心に指導を行った。

【非対面同期型（第12回～第14回）】

ビデオ通話は、複数のツール（アプリ）を試した結果、音質や強弱、音の保持の面から総合的に最適と判断したものを活用し、受講者の用いるデバイスに応じて、FaceTimeとSkype、Microsoft Teamsを用いて同期により実施した。

指導者の観点から感じた利点は、対面授業では距離を取る中で難しくなっていた実演による例示や、受講者の手指のフォーム、姿勢、具体的な動き、表情などを近くで確認することができた点である。しかし、ネット環境（回線速度）によって不具合が発生し、不安定さを解消できなかった点は課題であった。

ビデオ通話による細やかな表現（音色・デュナーミク・アゴーギク・アーティキュレーション・ペダル等）の聴取は困難であったため、聴取でき

る範囲内での助言に留まる傾向にあった。その際、受講者の目的や問題意識を口頭で聞き取り、改善方法やアプローチの提案、練習方法についてのフィードバックを行うことを心がけた。

対面・非対面のいずれの方法においても、各受講者に応じた課題と進度、指導助言の方法や言葉掛けを工夫することで課題や動機付けを明確にし、授業外学習の促進にも繋がるよう意図した。今回、感染防止対策として1対1の授業であったことから、グループ授業に比べて受講者とのやりとりを深めることができた一方、他の受講者と互いに演奏を聴き合う機会が非常に少なかった。

【対面（第15回）最終試験】

実技試験は、他クラスとの合同により、時間を区切り少人数で行った。人前での演奏経験や他者の演奏から受ける刺激は学習効果を高めることに有効であり、発表会形式で対面による試験を実施できたことは良かったが、受講者間での意見交換は行うことができなかった。終了後、個別に受講者から受講者へのコメント、振り返りを行った。

5. 授業アンケートの結果について

本授業の試験受験者6名を対象に実施したDPアンケートの結果を表1～表3に示す。

表1. DP1～DP4 の内容

DP1	知識・理解:教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。
DP2	技能:教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。
DP3	思考・判断・表現:教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。
DP4	興味・関心・意欲、態度:教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。

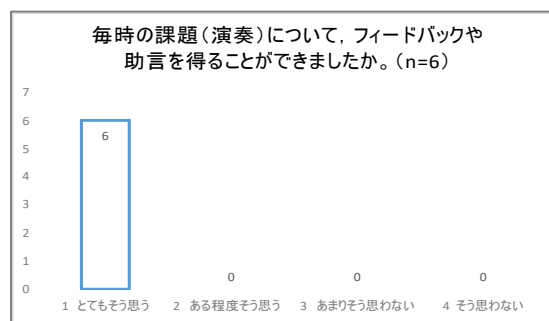
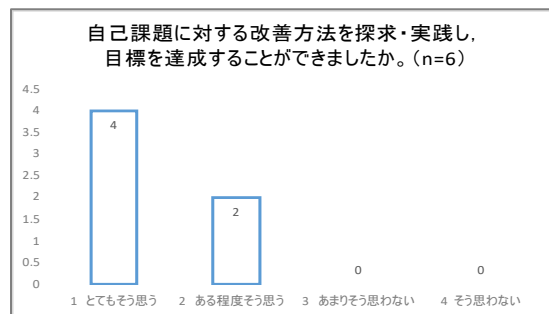
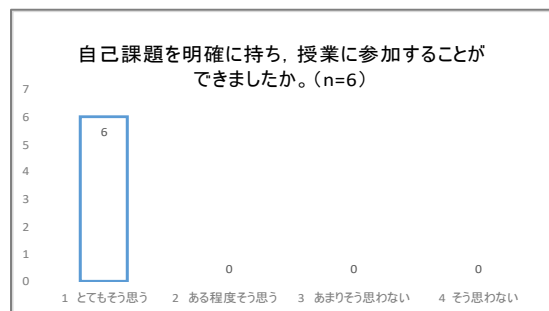
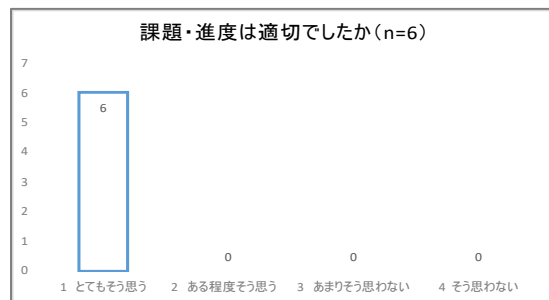
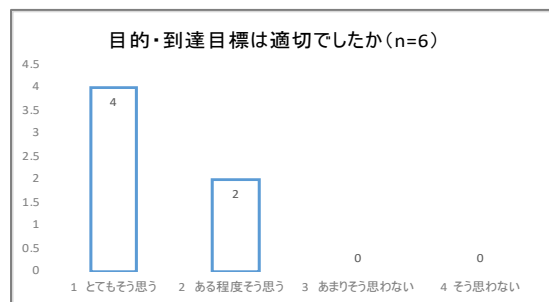
表2. DP1～DP4 の調査結果

	DP1.知識・理解	DP2.技能	DP3.思考・判断・表現	DP4.興味・関心・意欲、態度
とても思う	6名(100%)	5名(83%)	3名(50%)	3名(50%)
ある程度思う	0名(0%)	1名(17%)	1名(17%)	2名(33%)
あまりそう思わない	0名(0%)	0名(0%)	0名(0%)	0名(0%)
DPとは無関係	0名(0%)	0名(0%)	2名(33%)	1名(17%)

表3. 授業外学習の時間（週平均）

受講者	この授業で出された課題や予習・復習のために、授業時間外に費やした学習時間（一週間の平均）	この授業で出された課題や予習・復習をおこなうこと以外の理由で、この授業に関連して時間外に費やした学習時間（一週間の平均）	合計時間（週の平均）
A	6	6	12
B	7	5	12
C	5	0	5
D	15	0	15
E	5	0.5	5.5
F	2	2	4

本授業に関する独自に設定した設問によるアンケート結果を以下に示す。



次に、独自に設定した自由記述式設問「この授業での対面型・非対面（同期型）の実施形態それ

ぞれの良い点・課題点など、感じたことを記入してください。」で得られた回答を表4、表5に示す。

表4. 対面の良い点と課題点（自由記述式）

対面	
(良い点)	(課題点)
<ul style="list-style-type: none"> ・直接指導していただけるため、音や腕の使い方がわかりやすい点。 ・直接指導していただくことで、内容理解が深まること。 ・先生に生のピアノの音を聴いていただき評価をいただけた点良かったと感じた。 ・細かい音の修正が可能であることが良かったです。 ・実際に先生が演奏する音を聴けたり、音のイメージを掴みやすい点。 ・グランドピアノで演奏する感覚を身につけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なし。 ・課題点は感染リスク以外にはない。

表5. 非対面の良い点と課題点（自由記述式）

非対面(同期型)	
(良い点)	(課題点)
<ul style="list-style-type: none"> ・授業直前に練習することができ点。 ・遠隔は、face timeを使うとタイムラグが少なく、対面に近いような環境で行うことができたのがとても良かった。 ・家で授業が受けられる点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若干聞き取りづらいことがあったり、微妙なニュアンスがわかりにくい点。 ・音が正確に伝わらない。 ・音質の劣化が生じる点。 ・パソコンからの音が聞こえにくく、声が届かなかったり音質が悪かったり受けにくい面があった。 ・表面的な情報伝達に留まった感があった。アプリを同期させると音質に問題があるためあらかじめ録音したものを提出してもよかったかもしれない。

DP1～DP4の調査(表1, 表2)において, DP1(知識・理解)は全受講者が「とてもそう思う」と回答し, DP2(技能)は1名を除いて「とてもそう思う」との回答を得られた。DP3, DP4については回答にばらつきが見られた。特にDP3(思考・判断・表現)に関しては、「DPに該当しない」と回答した受講者が2名であったが, 3名が「とてもそう思う」と回答した。

授業外学習に関する2つの質問(表3)では, 本授業の予習・復習および関連する学習として, 各受講者が週平均4時間～15時間程度取り組んでいるとの回答であった。6名の平均は8.9時間であった。

独自に設定したアンケート結果では, 「自己課題を明確に持ち, 授業に参加できたか」について, 全員が「とてもそう思う」と回答し, 「自己課題に対する改善方法を探求・実践し, 目標を達

成することができたか」については, 4名が「とてもそう思う」, 2名が「ある程度そう思う」とポジティブな回答を得ることができた。

自由記述式のアンケート(表4, 表5)では, 対面・非対面での実施方法について, 全受講者が対面での実施にメリットを感じており, 課題点はないと回答した。一方, 非対面の課題として, 多くの受講者がネット回線による音質等の問題を挙げている。受講者から非対面での良い点が挙げられなかったことから, 授業者側の視点で感じた利点(近距離で指先の運指やフォーム, マスクを外した際の表情や全身姿勢の確認ができる点など)は, 受講者にとって特にメリットとは感じていない, あるいは意識になかったことが推察できる。ビデオ通話による授業者の例示演奏もどのように受講者に届いていたかわからず, 各受講者の家庭内における演奏環境, ネット環境, 使用するデバイス, 周辺機器等も異なるため, 同じ条件下で実施できなかった点には課題が残った。

6. まとめ

アンケート結果から, 受講者が自己課題を明確に持ち主体的に受講できていたこと, 授業外学習にも取り組んでいたことがわかった。今回, 1月から後期終了時まで急遽遠隔実施となったことで, 当初の授業計画を変更せざるを得なかったが, 全受講者が状況を理解し, 実技を非対面で受講する際も協力的に応じてくれた。コロナ禍での新しい取組から得られた知見は, 今後の授業にも



写真: 対面授業の様子

生かせることがあり, 実技演習における個別指導, グループ指導それぞれの有効なフィードバックのあり方を工夫していきたいと考えている。